图形用户界面, 应用程序, Teams

描述已自动生成

1. 私は経済学部の環境経済学のゼミに所属している。経済学は理論ベースで学び、ゼミで主に計量経済学、環境経済学を中心として学んでいる。またゼミのグループ研究の際に、RプログラミングのソフトウェアR studioを用いてデータ分析などをしていた。
2. 最も力を入れたのは、ユニクロのアルバイトリーダーとして業務の効率を改善することで顧客満足度を向上させたことだ。当店舗は業務が多く、業務の効率が悪いため非常に忙しかった。それ故顧客対応が不十分となり、顧客満足度は5点中３点しかなかった。店員も忙しさのストレスがたまり、全体のモチベーションも下がっていた。そこで私は責任を感じ、店舗のイメージを向上させたく、業務効率化に挑戦した。私は１）店員の業務の観察と対話の中で彼らの得意・不得意な業務を把握し、仕事経験も加味して適材適所に人員を再配置した。２）常に売場状況や作業進捗度の共有を行い、状況により業務の優先順位を調整した。結果として店員のストレスは見られなくなり、業務効率が向上したことで顧客対応に余裕が生まれた。そして、全員が積極的に顧客に声かけや採寸などを行うように呼び掛けることで顧客対応を活発化させた結果、顧客満足度は3点から4.5点に向上した。
3. 私がIT技術を駆使し製造業のデジタル化を支援したいという思いがある。こうした考えたきっかけは、父親の物流会社がERPやバーコード技術といった技術の導入により業務効率化が可能となり、エネルギーの使用量や人件費といったコストなどが減少した経験と、環境経済学の勉強を通して、製造業において温室効果ガスの大量排出と少子高齢化による労働力不足という深刻な問題を抱えていることを知った背景がある。ITの可能性と将来性を感じた私は、IT技術を用いて製造業のデジタル化を推進することで効率性や生産性を向上すると共に、社会問題の解決にも貢献したいと考え、ITサービス業界を志望した。さらに、幅広い技術やシステム開発に関する高度な知見を身につけた上で、技術者として技術を武器に顧客に丁寧に寄り添って課題を解決するエンジニア職の仕事にやりがいと達成感を感じた。将来は、顧客の業務効率化を実現するための最適なソリューションを提供したい。